

〈自殺バージョン〉（希死念慮を抱えて傷を舐め合いしていたネットの友達と一緒に生きようと約束した日の後）

う、うう……

うわああ、うつえっぐ（嗚咽）（唾を飲み込む）

なんでえ…なんで死んじやったのう…う？

なんで、（涙を飲み込む）

だってだってさあ、約束したじゃん。

もうちよつと生きてみようって、がんばろーって約束したじゃん。

うなづいてくれたよねえ、ねえ〜!!!

うそつきい、うそつき！ばか！！《急に顔を上げる》（強めの言い方）

《また伏せる》

なんでだろう…私との約束なんてどーでもよくなっちゃうくらい死にたかったの？

相談してくれば、

私、ちゃんと考えたし言っただよ、ばか

もう聞いてくれないじゃん

聞こえてないんだもん

答えてくれないんだもん

どれだけ言葉を尽くしたってさ、

いまさらぜんぶ、無意味になっちゃう

聞いてよ、答えてよう！ううう…ひどいひどいよぉ〜（ひとしきり泣く）

…そっか、最初から聞こえてなんかいなかったのかな　ぐす（鼻を吸る）

《ここから自嘲的な感じで》

私の声なんか聞こえてなくなっただよ、ずつと、閉じた暗い場所にいたんだろうね

私がどんなに言っただよそれは結局おためごかしで、（息を飲み込む）

世界の都合のいーぶぶんだけ取り繕って渡されてるって感じださ！

（涙を飲みこみながら話す、最後ちよつと笑ってる　含み笑い）

自分が見ている現実なんかさ、ぜんぜん、無視されちゃってるって、おもってたの？（一旦涙が止まる）
そうかな、そうなのかなあ。

わからないね、もう一生。

ひどいなあ。ねえ。信じてくれなかったの？

世界に絶望してるからわたしのこと尊重しなくなっただっていいとも思っていたのかな。

取るに足らない、世界の話、ではなかったんだろーね

だって死んじゃったんだもん

世界は自分の中で大きかったんでしょ、なんだかんだ言っ

ほんと、ひどいや。

ああでも、ひどいのはわたしもおんなじか。

おんなじなんだろうね

私に見えてる世界を押し付けて、救ったフリして。救われたふりをして。

結局決めるのは全部、自分なんだからさ。

じゃあわたしと笑い合ったのもぜんぶ嘘だったのかな。

そうすると世界で生きていてもいいような気がするから？

生きていくために仕方なくしてたの？

もう、それも、つかれ、疲れちゃってたのかなあ？

（また棺に突っ伏して泣き始める）

なんにもっ、なんにもわかんなかったよ！

何もぜんぶもうわからない

ばか！うそつき！

うううう……

うえっ、うぐう、はあう…うう

かなしいよ

いなくなっただけかなしいよ

すぎだよすぎだったよ

くだらない話してわらいあいたかったよ
もっともっと、いろんなことしたかった
傷の舐め合いだっていいじゃない

それで救われるんなら正しかったんだよ！救われてよ
どうしておいていくんだよおう…！

ひどい、ううっ…うえ、なんでえ…

私にだけ傷跡残していくなんてあんまりにも都合がいいじゃない
復讐のつもり？

私たち共犯者じゃなかったの

一緒に世界を裏切ってくれないなんて酷すぎるよ
くやしい

ばかあ……

だいすきだよ、大好きだった

ぜんぶ過去にしたのは私のせいじゃない

許してなんかあげないよ

ばか、ばか、ばーか…！！

あんたなんて、あんたなんて、うう

わたしの気持ちのあったかいとこだけ吸い取って

勝手に気持ち良くなって…！

満足したんでしょ！満ち足りちゃったんでしょ！

だからもういいやって、ぜーんぶ勝手に思い込んだんでしょ！

ばか！いきてれば、いきてさえいればわたしの感情もっと

もっとあげられたのに、あげたのに

ばかあ…っつ。

（大きく深呼吸をする）

そんな、それっぽっちで満足だっていふんなら、ゆっくり待っているといいよ
骨に変わって灰になってぜんぶぜんぶ君の思い通りになったあと

ゆっくり私の中で死んでいくのを待っていて

あなたが灰になるさかり、たっぷり深呼吸をしてあげる
人は二度死ぬんだ

一度目は、肉体の死。いまみたいにね

二度目は、この世の人みんなに忘れられたとき。

だから今度死ぬときは私と一緒に死ぬの。

〈胸に手を置き、深呼吸をする〉

ふふ、ふふはっははは！！！！

うえう、つく

でも、声はきこえないんだ……

うつうつ……へすり泣きが続く

しぬなんて、死ぬなんてひどいヨォ

ぜんぶおぼえている

こえもかたちもなにもかも

でもそのぜんぶ、理解なんてできない

私たちは別々のいきものだった

だれしも傷つき心を痛めてる

おんなじ傷は持てない 違う皮膚を持ち細胞を持つ

たとえ同じナイフで切られようとも

完全に同じ傷など持っていないんだ

ああ、あう、かなしいねえ、かなしい

いまこうして呼吸してるのがかなしい

でも私が死んじやったら

また死んじやうじゃない

私の命ある限り、私と一緒に生きていくの

それが約束破った罰

罰だよ……

くるしんじゃえ

ばか、かつてに、かつてに置いてくの全部止めちゃうの
幸せになって

置いていくな幸せになってよ

でもね、でも

ね、また会うの、何度も夢の中で

私たちは

きつと変わっていくでしょう

それは劣化じゃない

成長なのだから、私の中で生き続ける…

だから、だからまたねええうわあああ

〈泣く…ゆっくりフェードアウト〉

葬式男？女？ 葬儀屋さん

（火葬されるまでの時間を、葬儀屋と過ごす）

私があなたを燃やし尽くす準備ができるまでの

時間、そばに居させていただきますね……

ふふ、静か……

遠くでは太陽みたいな炎が箱の中で誰かを焼いているのに

どんな日だって死ぬのに最良の日、生きるのに最良の日

あなたの人生からすればほんの刹那の、モラトリアム

死ぬとき最後まで残っているのは聴覚らしいですね。ね、聞こえます？

聞こえてたらいけないんですけど、うふふ

生きるって騒がしいですね

最後まで静かな時間を貴方にあげることが、この世界で肉体のある貴方に直接できる最後のことですから
あ、だまりましょうか

あー、雨が降ってきた 天気予報、外れたなあ

（雨の音）

ふふ、空があなたのために泣いている、というのは少しメルヘンですかね

いちいち空が泣いてくれていたら世界はもう今頃悲しみに飲まれているに違いありません

…生前のあなたに会えたらどれだけ良かったでしょう

綺麗な死顔、と言ってもいいのでしょうか

今まで見送らせていただいたんだんな方より美しいですよ

美しさ、というのはあなたの努力です

たくさん頑張ったのでしょうね

あなたが知らないうちに きっと、たくさん

わたしはどれだけ願ってもあなたの表層、外側の、縁取りにしか触れることができない
人は魂を愛されたいとよく願うでしょう？

そして、それを本質だという。

肉体はただの入れ物だと言いますね

でも、肉体だって確かにあなたの一部だったはずだ

あなたはどちらをより愛されたかったのでしょうか

今となっては私たちはもう、分かり合えない関係ですから

表層だけでも、愛させてください

葬式は人生の採点だという方がありますが、わたしは少し違う気がします

葬式というのは一つの区切りに過ぎないんです

日々は連綿と続き、沢山の関係性の交差で成り立っていますよね

その関係性が人である場合だけが全てではないなあ、と私は思うんです

たとえば、草とか猫とかネジだとか…

なんでもいいんですよ

日々を営む中に心の中に組み込まれるものが人である必要なんてどこにもないんです

誰も人生の答え合わせなんてしてくれません

あなたがいきっていたとき、幸福だと思える瞬間が少しでもあったのなら、さいわいだというだけです。

これは祈りです。すべて、あなたのための…

(鈴がなる)

あ、焼却炉が空いたみたい

それじゃ、さようなら。

もし今度会うことがあったら…

(ちよっと悩む)

これは呪いかな、祝福になるのだろうか？

…とりあえず今はあなたがただ安らかに眠れるように祈ります
灰となったあなたは、そのうち自然、海にも草にも、わたしとも、境目なく溶け合い、分かり合えるでしょう
形を失うということはなにも不幸ばかりではないのですよ
それでは、さようなら。（優しくにこやかに）

〈飼っていた猫〉

にゃー…にゃー…
にゃー。にゃー！
あ、いた
よ…つと！

にゃー？

にゃんで箱になんか入ってんの？

いつも俺が入ると怒るくせにさ

おまえも箱の良さに目覚めちゃってさ！

気持ち良く寝ちゃってずりーの！

あ、でもおれのいばしよはやんねーかんにゃ！

にゃあお前、お前！

にゃんか知らない匂いするし

居心地悪いんだけど

お前みたいにや奴ら　ぜーいん

似たよーな服きてるし

区別つかないよー　にゃーお

うわ、にゃにおまえ、

牛乳みたいに白い服

初めて見た

汚れやすいっていつて

ふだんきねえじゃん

近づくと怒るじゃん

きよーはおこんねえーの？

まっしろ

しろーい

ふうん……ふふ

ふあゝはあ

にゃーぐ

にゃあ暇なら遊んでよ！

あ、そ、べ！

(ぴょん、と跳ねて棺の中に入り込む)

くんくん、うん

はあ

わ？

んんん？

ぜんぜんうごかねえの？ニヤー？

んん？

んん？

ぺち、ぺち

うーん

ぺろ

こしょこしょ

こしょこしょー！！

うん？

にやああ？くすぐったがらねえの？

つまんねえじゃんかよ

いつもは自分からベタベタ触ってくるくせにさ

なんだよ、まだ怒ってるの？

こないだひつかいたのは悪かったって

いゝかげん返事してくれよう

なあー、なあって

にやー

にやー！

にやー！！！！（だんだん強く）

どうしちゃったんだよう…

俺なんかしたのかなあ

ねえあそぼ

もう引つかかないしなんかやってるのも

邪魔しねえから

なあにやあ！

にや

(頬擦りしてたところを引き離される)

あっにやにすんだおまえー！！

やめろ！やめろ！俺はこいつにー！

こいつといるのー！！

にやー

たすける！たすけるよー！おまえいつも俺にほーずりしてきたくせに！

むしかよ！ひでーの

ばーか！

もうあそんでやんねーよ！

またたび出しても負けてヤンねえんだからにやあ！

にやあー！！！！

「フェードアウト」

(さみしげ、冷静に)

暗い箱ん中に入れられて揺れて、ずいぶん経ったにやあ

それなのに、あいついないし

明るくなって下ろされたのは、しらないところ

あいつの家より広くて、綺麗で、でもあいつがない

知らない家…

あいつは？あいつは帰ってこねえの？

ニヤー？

ニヤー…にや…

俺のこと捨てたの、かにやあ

にや、信じてない

なあお前の声で、名前を読んでくれよう
寂しんだよう
にゃあ…

何年も生きているロリ婆妖精魔法使い師匠 中学生くらいの見た目

（クールぶった感じで）

ふん、使い魔に呼ばれてきてみれば……

ようやく死んだか

わたしの工房を出て行つて

そんなに時間が経っていないように思うがな
ほう…

完全に息の根が止まっている

ほんとうに、死んでいるのじゃな……っ

っは、まずは魔法をかけなくては

〈クルトゥール、サルール！〉

おまえに、初めて教えてやった花を降らせる祝福の魔法じゃ
シンブルじゃがわたしが一番すきな魔法じゃ

おまえも好きだったな

花は良い

悪いものから身を守ってくれる

死というのはいわゆる穢れに属するからな

まずは場を清めんといかん

そういう意味でもこの魔法は有用だというのに、おまえは美しいからという理由でよく魔法花を作っておったな

…う 使者には安らかな眠りが必要じゃからな

はあ、長い暇つぶしもこれで終わりじゃな

なかなか楽しませてもらった

人の子と関わるのもこれで終いかな

ほんの、ほんの刹那のことじゃった

けれどもおまえのこともう少しだけ覚えておいてやることにした

ざっと、そうだなおまえの時間で200年ほどじゃ

うれしいじゃろ？

この高名な魔法使いのわたしの素晴らしい名前に

おまえの名前は刻まれているんじゃないぞ

わすれてなんぞ、やらんぞ

天才の名折れじゃからな！ けっしておまえのためじゃないぞ！

さて、と、そろそろ人の子の慣習に則って火葬してやろう

ちゃんと墓も作ってやるからな わたしの弟子だからな！ ちゃんと、ちゃんとやってやる

墓を作るなんて、魔法使いではなく人の子のやる事だがな

おまえは人間だったから、帰る場所があるというのが、一緒に止まるのが喜びなのであるっ？

ふん、それじゃ、最後に顔を見せる

わたしを見つめていたその瞳を、魔法を使っていたその手を もう一度よく、見せるのじゃ！

ふふ、ふっう

めは、もう、あかない（涙が混じり始める）

こんな、こんなふうになって なにも変わっていないように見えてこんなふうにな、変質していたのか
魂がもう、どこにも、どこにもない！

わたしが信じたものももうどこにも……

お前はもうどこにも……

うっ……うっ（堪えていたものがあふれる）

うわああああん！（ここから全体的に涙まじりに）

あのときと、おんなじ、やさしい顔してる……

すまんなあ、すまんなあ

わらって、見送ってあげたいな、って

思っていたのだから

うまく、いかないものじゃなあ あは、は

よく眠っているようにしか見えんのじゃがなあ

ふ、ふふ なつかしい

よく一緒に昼寝、した、なあ

寝っ転がって、星空見ながら

あっても眠ってるからっ、あっう、

今は空、見えないのじゃろうか

まぶたの裏側、ゆめの、ゆめの中なら

ぜんぶ、自分のものなんじゃから

きつと綺麗なそらがあるんじゃろうなあ

おまえの、おまえの魂は空を見ているんじゃろう？

しばらく会わない間にこんなに大人になりおって

知りたかったのう、どんな空を見てたのか

また、語り合いたかった

ぐっ、うっ……ああ

あっああ

わか、わからない

どうしてもっと話しなかったのか

なんで、なんでじゃろう

うう、またすぐ会えるって

一緒に空を見ようって

ああ、うっ

くあ…あう

約束だけが残った

わたしも、残っちゃった

いつもわたしは置いていかれるのじゃ

う、うううぐ

お前が、羨ましいよ

おまえはわたしの、たいせつな弟子じゃった

はじめてで、最後のかわいい弟子じゃ

ふん！

残った思い出、全部独り占めしてやるんだからな！

忘れてなんぞやらんからな

ああ

今日の天気はとってもいいぞ

シャボン玉、飛ばしてやる

昔おまえとよくやった、魔法でもなんでもないあの虹色の玉をたくさんたくさん浮かべてやる

気持ちを入れて吹いてやる

きつと空まで届くから

おまえのとこまでとどくから

ううわあああああうう…

(暫し泣く)

フウ…うつ、ん。

取り乱しすぎたかのう

さて、そろそろ燃やしてやる、かの

(しばしの沈黙)

うう！うわあああ！

やだ！やっぱりやだ！別れたくない！

おまえのことゾンビにせずと一緒にいたいじゃ！

ばか！なんでしぬんじゃ！

いつもそうじゃおまえらは！ばか！

ばかじゃ…わたしもおまえも本当に。

禁忌魔法でお前をゾンビにしたって魂がおまえじゃないなら、もうおまえじゃないのじゃ…

それなら人の子の師匠の魔法使いとしても、おまえを燃やしてやるのがわたしのすべきこと

ぐ、う…いや！いや！許さんぞ

大事なお前を燃やしてなんぞなるものか

うあ…：やっぱり人間ってひどいこと考えるものじゃな

魔女裁判も人を燃やすんじゃ

むかし、教えたな？ 私の姉も燃やされた

でも葬式の火は祈りなのじゃ

葬式は残された、わたしのためのものじゃ

わたしがおまえを、愛していたことを確認するものじゃ…

ううでもやっぱり火はいやだ！

そうじゃ！私が魔法使いのための葬式をしてやる！

今考えた！この天才魔法使いの私がお前のために考えてやった

普通の魔法使いは死ぬと自然と砂に変わってしまうからな

葬式なんぞ、したことがなかった

だからこの魔法で魔法使いとして初めての式を開いてやる！

やっぱり私は天才じゃな！

かんしゃするのじゃぞ〜！

やさしく痛みなく魔法で終わらせてやる…お前のための祈りじゃ

この魔法はお前のために今作った。天才じゃかな！多分これから先、口にすることはないんじやろう……（慈しむように）

おまえの名前を魔法に織り込んでやった、おまえだけの魔法じゃ

へ……サトゥオール、ミュウルクゥオール

おまえはゆっくり、宝石になってゆくのじゃ

掌サイズの美しいもの

お前は美しかった

見た目、ということではない

そんなもの何百年も生きてればどうでもよくなる

お前の無邪気な瞳、とても好きじゃった

いつまでも、お前のために祈っているのじゃ……

うわー！ん！！さよなら……じゃ……

私の魂がそちらにいくまで待つておれ

なに、すぐじゃ！

数百年生きてる私がいうんじゃから間違いない！

だから、泣くんじゃ無いぞ（言い聞かせるように）

（涙を飲んで一呼吸）

へクルトゥール、サルール！

この大魔法使いの大いなる祝福を、おまえに！

よく田舎のベンチでバスを待ちながら一緒に会話していた東京から引越してきた文学少女による葬式（葬式はやったが知り合いではなかったなので葬式には呼ばれなかった）セミの声重なる バスで少女はちよつと離れた高等学校に行くので、これは朝の話

あの人、今日もこないなあ

おすめの本教えてくれるって言ってたのに

それにしてもあつついなあ

でも自販まで遠いし歩くのやんなっちゃう

東京みたいにコンビニもないもんな

田舎って大変だー

まだ慣れない

スマホも3Gで大抵低速だし独り言が増えて困るよ

あの人が早く来ないと不審者になっちゃう

今日はよく晴れてる 雨でも降れば涼しくなって良いのに

あの人の言葉をあてにして新しい本も持っていないしな

久々に掲示板でもみようかな

よっと(ベンチから立ち上がる)

なにか知らないことはあるかなーっと

あ、真新しい訃報が一枚 うえ他のは虫食って読めない

ま、限界集落とは行かなくても老人多いもんねー 新陳代謝ー

どれどれ 名前はっと、 え・・・

こ、これあの人じゃん

名前数回しか聞いたことないけどきつとそうだ

年齢も、多分あつてる、え、し、死んじやったの

そうか死んじやったんだ

え、いつ

え・・・お葬式もう終わっちゃってるの

私、呼ばれてない

いや、そっか

フツーバス停で会話するだけのにんげん葬式に呼ばないか

ああでも私、悲しいんだなあ

友達居なくなっちゃった

気ままに向き合える人にようやく出会えたと思ったのに

居なくなっちゃった・・・

(セミの声)

あーもう！セミうるさああい！

感傷にも浸れないよおお！

田舎って世間が狭いっていうけどそうでもないんだね
勉強になった

でもほんとにはあの人と本について語り合って、
どーでも良いこと現実には差し障らないこと学びたかった
どんな本貸してくれるつもりだったんだろ
知りたかったなあ

でも家も知らないんだ

あ……もうすぐバスが来る

（かけてゆく）

一緒に読んだ動物たちのお葬式の話！

私の好きな話、大切な人の未来を思って花を川に流すの
花はいい香りだから間を退けるらしいし

う、ごめんなさい でも大切な友達のためだから許して

（プチ、花をもぐ音）

あなたのおしまいが、始まりが少しでも彩にあふれますように（クラクション）
・・・あバス来ちゃった

それじゃまたね、って居ないんだよね
うーん

現実感がないな

草葉の影に隠れてるんでしょお

ふふ、なんてね

朝だし出てくる時間じゃないよね

夕方、逢魔時帰ってきたら会ってくれる、かな

友達に夢見るくらいいいーよね

おすすめの本くらい教えてよ、ケチだな

いーよちゃんと友達つくるよ絵も大切な友達なのは
変わらないから！

じゃ、バイバイ

運転手さん。お待たせしました

お願いします

(クラクション)

葬式前トラック

自殺サークル

うん、約束だよ　一緒に行きてこうね　ふふふ。指切った　うふふ！友達と約束したのなんて初めて……。初めての友達、初めての……約束。

ネコ

にゃあー！おかえり！きよーははやかっただにゃあ！ごはんごはん、はやくあそべー！にやつ？！葉っぱが生えた器落としたのばれちゃったにゃあ！ごめんにやさしい！　えへへ、怪我はにゃいよう。

ろりばばあ

そうか、出ていくのか。　まあ？お主も？そこそこ力がついてきたしなあ　いいんじゃないか、止めはせんぞ　勝手にいくが良い　……でも、いつでも帰ってきてよいんじゃないぞ……いや、なんでもないっ！　どこへでも行けっ！おまえなんかもう、し、しらんのじゃからなあ！

そうぎ屋さん

サボテンさん、おはようございます　今日もいい天気ですねえ、さ、仕事にいきますかあ　ふああ、ねむい　途中で缶コーヒーでもかきましょうかねえ　それじゃあ行ってきます

バス停　初対面

あ、え、こ、おはよう、ございます　はじめまして、ですよ　そうですね、このバス停わたしとあなたしかいませんものね、誰かにフレンドリーに声かけられるのって、なれなくて……　そうですね、わたしこの街に先日引っ越してきたばかりで……え？なんの本読んでるのか、ですか。

えーっと…今は、「風立ちぬ」…あ、ちがいますよ！病気の療養とかでここにきたわけじゃなくて、単に親に付き添って…あ、あなたも本持ってますね　なんて本ですか？